

幸地学の琉球のコスモロジー 消失点からのフォルムの蘇生

フリーライター 奥原 進

幸地学は、カンデンスキー、クレー、ミロやキュビズムの作家らの図法や形をとり入れて、その響き相いのテンションと幸地の直感で新たなフォルムと空間を捜り当てていく。各部分の色価はほとんど等しく、像と線の響き相いの効果をきわだたせる。

水平線が多重的に引かれ、幸地に影響を与えた巨匠らのイズムのパースペクティブが提示され、それらを超出した地平線へ目を凝らす。人体は頭頂、肩、脚部などの水平線で縁取られ、一点透視画法の合理性が主観性に反転される。度々描かれる不死鳥は、超出と新たなフォルムへの意志と希いが込められている。

今世紀前半の絵画の先鋭では、マチスの形象のシルエット化、マレービッチの方形の淵など、フォルムからの離背があり、中期のアメリカ抽象表現主義、ポロック、ロスコらでは西洋の文明・社会の重圧を断った自由な個として描くことと見ることのラジカルな在り様を求め、フォルムと像は社会的、文化的な意味連関とともに排斥された。スーパーリアリズム、コピーアート、ポップアートも20世紀文明の袋小路での純然たる個と像との端々しき出逢いの喪失を逆証しつつ叫んでいたのではない。今世紀絵画の前衛にはフォルムの排斥があった。ピカソはフォルムへの愛執を貫いて偉大だったが、文明の毒と対峙する美学のダイナミズムが乏しい。幸地は現代文明の消失点である西洋合理主義の像とパースペクティブを越えたところで、フォルムの蘇りを渴望し遭遇を成し遂げたように見える。フランスの美術評論家・フランソワーズ・モナン

女史の「彼の探究は、今世紀最後に希望と感性を深く刻むものと私は信じる」という幸地学への言葉はその意味で読み取れよう。

西洋の巨匠らのイズムの混在や水平線の重複など、多声的なモチーフのコンポジションはカンデンスキー的な広がりを持ち、宇宙への音楽的な情念という点で通じ合う資質があると思えるが、この幸地の音楽的知性は琉球音楽の構造や感性と共通の根を持っているのではあるまいか。

沖繩やアジア音楽の構成や調性について、作曲家・杉本信夫氏の言葉を借りると「西洋近代音楽の形成や転調は対比、対立的で弁証法的だが、アジアでは音楽そのものは並列的、モザイク的無限性」である。アジア的なヘテロホニー（多声的音楽の一形態）が西洋文化圏で例外的に顕著なスラブが、カンデンスキーの生地であることは偶然とも言い切れまい。幸地は「以前は空間があつて物があると思っていたが、物と物の相対的關係が在って空間が在ると考えるようになった」と語っている。一見不合理に思えながら、現代物理学の量子と鼠子、またそのエネルギー

ギーが時空を決定するという理論と妙に響き合う。幸地は「本能」と述べているが、幸地の空間理念へ導いたものに優れた直観と、ヘテロホニックな宇宙への音楽的情念があるように思える。

東洋音楽の一要素で琉球音楽に色濃いハヤシがあるが、ハヤシ的なものが幸地の音楽的情念と構造として取り込まれてあることを認めることができよう。ハヤシの形態のひとつに、主題に挿入されて全体に生氣と広がりを与える作用があるが、リアリズムの開祖クールベの写実的田園風景の中に自然の生命感を醸し出すために配した妖精をハヤシ的図像と名付けることができ、レジェの人物のたおやかな軽みもハヤシであろう。幸地では、飛び跳ねる小動物と花として現れ、絵画『宇宙のトンボ』は自然と宇宙の気を運び、軽みを持ってよぎっていくもの—ハヤシが巨大なトンボのすがたになっていると解釈できよう。

彫刻『距離』は橋や脚を思わせる下部の水平線と、角のような上部の水平線が交差するように配置され、二つの見ることのパースペクティブの拮抗点、消失点の彼方から波紋が同心円でこだまし、琉球古典舞踊『諸屯』の三角目ちちの振りでの、内的距離と外的距離をとともに超える目差しのコズミックなエロスと相通じる目の詩想があり、また、古典音楽「十七八節」の玄妙な時空を彷彿させる。

幸地の鋭い目差しと思惟が、琉球のコスモロジーの脈流と呼応しつつ、絵画という世界観の芸術で新たなビジョンと形を芽生えさせているかに見える。 (おはら すむ)

プロフィール

奥原 進(おはら すむ)

1953 与那原町生れ

琉大中退後、業界紙記者を経て現在フリーライター



幸地 宇 「音を見つめる」

CREATIVE OFFICE

SHINJO Vib CREATION

プランニング(企画) S.V.C マネージング(経営)

〒900 那覇市牧志2-13-15・501 ☎(098)867-9999

絵画・POP用品・陶芸用小物・電動ロケ・額縁制作



CULTURE PLAZA

株式会社 みつや書店

〒902 沖縄県那覇市壹屋1-1-3 ☎(0988)63-1650代

金城 明一
インタビュー

沖縄を描き続けるということ。

それは、「自分自身の色や形を求めること」

光、風、植物、空…生まれ育ってきた自然がどんどんはぎ取られていく。あたり前だった身近な風景が日々に遠のく中で、こだわりの風景を追い求める金城明一。あたり前だった風景と向かい合い、内に取り込むことで時代と文化のきしむ音を聞きとっているかのようだ。金城さんに最近の心境を語ってもらった。

GV：明一さんのアトリエを訪ねるのは初めてなんですが、今日はいろいろとお話を聞かせて下さい。まず、作家になったきっかけについて聞かせていただけますか。

金城：いつスタートをきったのか自分でもわからないんだけど…。最初に漆器を作る仕事をしたんですが、一日中パーツでの作業で先の見通しがつかなくてやめたんです。次に看板屋の仕事を始めたんです。でも、もっと技術的な部分をみがきたくて大阪の美術学校に行きました。そこではデザインの基礎的なことを勉強したんですが、デザインというのは、締め切りにいつも追われる仕事なんです。それに、あるレベルの表現力を有無を問わずに要求される分野

だからアイディアの面でも乏しいかなあという感じで…。

GV：締め切りとか、時間に追われるのが性格的にあわないのですか。

金城：脳みそが吃るだけで、なかなか短期間に結論を出せないタイプなんです。絵を描くことの方が自分のリズムで表現できるでしょう。それと別の意味で自分を表現するとき、言葉ではなかなか伝えられないけれど、描くことだったら自分を表現する上で近い線が出

せるんじゃないかって思ったんです。

沖縄の風景画にこだわる理由

GV：明一さんの描く絵は、赤がわらやマチヤグラーとか、沖縄の古い民家とか、生活の匂いのする絵が多いですね。それにこだわる理由はどこにあるのでしょうか。

金城：小さいころから見慣れている身の回りの風景なんです。肉声に近く、それがたまたま絵の主体



アトリエで制作する金城明一さん

國場組グループ

國 和 會

会 長 國 場 幸 治



ひとにいつも新しく一生活共感企業

りゅうせき

本社：沖縄県浦添市西洲2-2-3 〒901-21
TEL 098-875-5000 FAX 098-875-0270

になっているんです。でも、山の
陵を眺めたり、木や草、岩石とか
の鉱物を覗いたり、雲の動き、天
候の移ろいを楽しんだり、博物学
的なことも好きなんです。それを
描くことで表現しているところが
あるんじゃないかな。その点では
表現するという域に達していない
部分があると思います。

愛でることが好きで、楽しんで
いる部分が強いように感じます。
だから表現の段階まではいって
いないところがあって、厳しくや
っていかないといけないですね。

GV：それはどのようなことなん
でしょうか。説明するのは難しい
ですか。

金城：そこらへんで息詰まってい
る部分が多いからね。これだと説
明するのは難しいけれど、しほり
こんで集中的にやっていかなけれ
ば突破口は開かないんじゃないか
な。

GV：しほりこむというのはテー
マ性の問題ですか。それとも内容
的なことなのでしょう。

金城：両方です。ひとつのことを
やり続けていくことで曇りの中から
出てくると思うからね。でも現実
にやっているのは短いサイクルで
作品を作りすぎるんじゃないかな
という事、それは作品の大小もあ
るけれど、内容的にも言える事な
んです。自分自身“ドーン”と構
えて見えてくるものを描きたいと
思うんだけど、手短で興味をひ
くものに日々向き合っている状況
なんです。ある分野に深く入り込
んでいって見えてくるものに対し
て一生懸命取り組んでいかなけれ
ば、自分自身が不満を抱いている
事にはたどり着けないんじゃない
かなと思います。

今までに自分がやってきたこと
で、これはよくできたと思う
て、入口が見えてきたところで、
また別の方向に動いているん
です。見ることの楽しみに流れすぎ
るんじゃないかなと思います。身



金城 明一作品

の回りにあるマチヤグワートか、
人物とかいろいろとあって、どれ
も自分にとって好きなものなん
です。



自分があたりまえに愛でてきた
風景、自分が生まれ、育ってきた
回りの山々とか野っばらとか、生
きているものがはぎ取られていく
状況なんです。それを見ると、
無邪気にも描いていられないと感
じるし、自分が何をやっているの
か、どんなふう描いていけばい
いのか、風景と向かい合っている
と迫られている様で、この調子で
描いていていいのか、いろいろな
疑問にかられるわけです。

GV：社会のテクノロジーとか合
理性のシステムで、人間的な温か

みのはぎ取られていく現状にある
ということですね。

金城：思慮もなくはぎ取られてい
くことに対して寂しい思いがしま
す。少しでも残してほしいと思
うし、つい最近まで、このアトリエ
の窓から見えていた山が削られて
しまって、無意識のうちに取り込
んでいたものをはぎ取られると、
それを自分の中でどう収まりをつ
けたらいいのか戸惑いを感じずに
入られません。

人間の都合のいいように削った
り、変えられていく訳ですから。

GV：この様な環境問題は今日的
なテーマだと思います。

自然のリズム

GV：明一さんの絵を始めてみた
とき華やかさはないけれど、でも
見ていくうちにだんだん味わいが
でてきて、なつかしさが伝わって
くるんです。不思議ですよ。

金城：陰暦とか、潮の干満、月の
満ち欠けのリズムなどを絵として
表現してみたいですね。植物には
植物の成長の時間があるように、
その物の過ごし方があると思うん
だよ。

石の過ごし方、雲の過ごし方…
人間の目から見た24時間ではな
く万物のリズムをいつも感じてい
たいんだよね。今はよく雲を見る
んだけど、見ているうちにどん
どん大きくなって行って、気がつ
いたら、いなくなってしまうと、
なかなか画面に定着させることが
できないんです。

GV：私などは日常の生活の中
で、はそんなところまでは、なか
なか目がいかないですよ。

* 額縁の専門店 *

合資 前田額装商会
会社

〒900 那覇市松尾2-7-29 ☎(098)867-4811 FAX(098)861-0367

GALLERY WORK-II

2-2-4 IZUMIZAKI NAHA
OKINAWA JAPAN 〒900
Phone 098(855)7933

金城：そうすることが僕の仕事で風景を眺めているわけです。朝早く起きて早い時間の横からの光線で山肌を浮かび上がらせたり、風景を様々に写し出す時間帯に合わせたいと思うんです。

GV：画面の中に光りや風ゆっくりとながれる時間などが取り込まれていて明一さんならではの世界が広がっているわけですが、他に描いてみたいテーマはありますか。例えば、エロティシズムを感じさせるような人物画を描くとか。

金城：そういえばきれいな女の人は描いたことがないし、わざわざ絵にする必要もないんじゃないかな。エロティシズムという分野は僕にはベールをかぶっている方が花だし…。

GV：オジーとかオーバーとかは描きやすいということですか。

金城：オジー、オーバーは乱暴に扱ってもびくともしない。整っている人の顔はその線に縛られて描けないんだよね。目が金縛りにあってしまうというか、それは風景にもいえるんです。美人な風景は興奮して平常心では描けない時もあったな。整い過ぎていると絵にする上では退屈で、だから返ってくせのあった方がいいんだよね。オジー、オーバーや風景にしても年期の入ったものというか、時間の痕跡を感じさせるところにあるような気がします。

作家活動について

GV：話は現実的な生活のことになりますが、作家活動だけで生活

をしていく難しさについて聞かせて下さい。

金城：描きたいという気持ちの鮮



金城 明一さん

プロフィール

- 1954 沖縄県東風平生執
- 1975 中の島美術学校卒業
- 1981 個展 (国吉ギャラリー)
- 1982 個展 (国吉ギャラリー)
- 1985 個展 (画廊沖縄)
- 1986 個展 (アートギャラリーガエラ)
モノクローム展 (芭蕉)
個展 (画廊沖縄)
- 1987 水彩画展 (お城家)
個展 (画廊沖縄)
- 1988 植物画展 (一如)
個展 (画廊沖縄)
- 1989 人物画展 (市民ギャラリー)
- 1990 風景を水彩展 (竹馬館)
マチヤ22景 (フィガ)
- 1991 風景画 (水彩) 展
(那覇市民ギャラリー)
瀬長島スツ展 (フィガ)
水彩画展 ゆいある (長野)
- 1993 看板風景より (ギャラリー)
水彩15橋 (フィガ)
市場の人々 (ていだ)
風景画展 (寓話)

度を保つのが難しいんじゃないかな。現在は2か月単位で発表をしているから、作品を出してしまうとリフレッシュできるんですが、もっとゆっくりと時間をかけて発酵させて制作していきかなければならないとは思いますが、でも、家族とか生活を意識すると長いサイクルをかけるのは難しくなるわけです。小さい作品を出し続けることで生活をするんだけど、そうすることでやっている側は細っていく部分もあるから、いつも新鮮な気持ちを保つことを忘れてはいけないと思います。

GV：新鮮な気持ちを保って気持ちを集中して描くためにどのようなことをするのですか。

金城：無理に画面の中に自分を引きずり込んでロスが多いから、その時はキャンバスに下地を塗ったり、作業的なことをもくもくとしていきます。そしてリズムの回復を待つわけです。

GV：明一さんの仕事をご家族の方はどのように見えていますか。

金城：率直に言うともっと頑張れということかな… (笑) もうすぐ子供も二人目ができそうだしね。だから、経済面からの頑張り、もうひとつには自分の仕事の目指す方向に対しての頑張りですね。

子供の成長を見ていると、時間の流れをいやでも意識させられるわけです。自分が生きている状況を納得できるころまで持っていきたいと思う気持ちはあるけれどね。自分が日頃感じている色の具合とか、いつも見ている風景をいざ描いてみると印象が違ったりとか、感覚を磨かなきゃいけないなと思います。でもコントロールが悪くて思うところに球がいかないんだ

Adlib 広告制作事務所
アドリヴ
〒901-21 浦添市宇勢理客527 ☎0988(77)6535

高感度の名画とライブ

オークスフェスティバルシアター
【国際通りフェスティバルビル6F】

よね。

現代美術について

GV：話は変わるんですが、明一さんは古典的なスタイルで沖縄の風景を主に描いていますが、現代美術の流れとかをどのように受け止めていますか。

金城：現代を呼吸している現代絵画、なかなか現物を見る機会がないんだけど、古いのも新しいのも変わらないんじゃないかな。現代絵画も好きだし、大昔の絵も好きなんだけど、現代絵画という物に触れたことがないから、正直なところあまりピンとこないですね。だから現代絵画と私、というより絵と私、として考える方が表現できると思います。

GV：興味のある作家について聞かせてください。

明一：興味のある作家はたくさんいますが、宗教画ではイコン画ですね。ああいう世界にはすごくひかれるんだよね。作品としての強さとか、技法を越えてしまうような絵の強さあっていいですね。そのほかには、ジオットとかね。

風景になるとセザンヌですね。自然の空気とかをとらえようとしている、呼吸している感じが好きですね。画面の中から感じるうねりとか、リズムがあるんだよね。



GV：数年前にアメリカへ行ったと聞いていますが、影響を受けたことはありますか。

金城：2年前にニューヨークに三日間だけいったんだけど、言葉が通じないというのは魅力的だよな。その雑多な多国籍の印象を留

めようと思って、切り絵とかコラージュとか、普段自分の使わない言葉でいくつか作ったのですが、おのずと抽象性を帯びている感じでした。

言葉が不自由な分、現代アートというものが、割とスムーズに取りこめるじゃないかと思いました。それと比べると自分が描いているスタイルは、言葉が通じる範囲の中での色合いが濃いからね。



「黄色い干し物」 金城 明一作品

期間が短かくて半分は時差ぼけをえさにしながら回っていたんで、もっと時間をかけていきたいですね。



GV：これからの抱負を聞かせて下さい。

明一：今の状況を越えたいということでしょうね。パンチを的確にしたものを描いて、もうひとつ向こうまで表現しないと、自分の目指す絵には到達しないからね。もたもたしている自分が歯がゆいんだよね。普段見慣れている風景でも持てあましているわけだから。

GV：ある程度自分の表現したい

世界はわかっているんだけど、なかなか到達できないで、現実的に目の前にある課題を消化することで精一杯ということですか。

金城：いくつかのイメージがあるんだけど、それが絶対的な渴望までには至っていないということ。自分の本当の渇きが何なのか気づいていないのかもしれない。

GV：沖縄の風景画をこれからも描いていくということですか。例

えば、カーラ家のそばに建っているビルの風景は新しい沖縄の風景ですよな。

金城：新旧おり混ざった風景のイメージは浮かんできてはいるんだけど、まだ手をつけていないですね。

自分が過ごし

てきたなかでの、時代的にさかのぼるような雰囲気というか、風景を描くことの方が先で、自分の育ってきた状況を描きたいのかもしれない。

自分は一体どんな色をしていて、どんな形をしているのか探っているのかもしれないね。それをもとにして、望む方向とか、こうありたいとか、表現本来の仕事が始まると思います。

GV：明一さんの眼を通してこれからも描かれていく沖縄は一体どんな色や形になっていくのか、とても興味が湧いてきます。頑張ってください。今日はどうもありがとうございました。

地元のビールが断然うまい、
最も新鮮

オリオンビール



絵画(油彩・水彩・版画)の専門店

画廊 沖縄

〒900 沖縄県那覇市泉崎2-2-3 ☎(098)34-6752

GALLERY WORK-II

企画予定

金城 明一 版画展

■10月4日(月)～16日(土)



市場のアンマー

生活感あふれる沖縄の風景や人物を描き続ける金城明一さん。今回は初めての版画展です。どのような作品を発表するか楽しみです。

ゴヤ・フリオ 彫刻展

■11月15日(月)～27日(土)



PACHAMAMA-II

フジ・サンケイビエンナーレ現代国際彫刻展で優秀賞に輝いたゴヤ・フリオさん。国際作家の仲間入りをし制作にますます力が入る。乞うご期待!

大浜 英治 展

■12月6日(月)～18日(土)

ジャン・デヴィッドソン展

■9月21日(火)～26日(日)

■沖縄三越ギャラリー

OFT

オークス
フェスティバル・シアター

9月スケジュール

《映画》

- 9/2～5 ●新桑の葉
 - 6～11 ●WAX
 - 13～19 ●ベニスに死す
 - 20～26 ●地獄に落ちた勇者ども
 - 27～10/3 ●櫻の園
- 《バラエティー》
- 9/12 ■DAY BAND OFT LIVE

※詳しい内容は下記の連絡先まで
ファスティバルビル6F
☎098(868)9894

りゅうせき美術大賞決まる

第4回りゅうせき美術賞の審査が8月3日県立芸術大学で行われた。応募総数は227点(162人)。今回はフリーのイラストレーターしろませいゆうさんの作品「ニライカナイ」が大賞に輝いた。入選以上55点は「1993りゅうせき美術賞展」は9月14日から19日まで那覇市民ギャラリーで開かれる。

ギャラリーウーマン

心の贅沢

大学を卒業して、就職間もない頃、私はあるホテルで行われた展示会に足を運んだ。まさかその時私が絵を買うことになるとは思ってもいなかった。

仕事の疲れを癒すには絵を見るのが一番、そう思った私はさっそく会場に入り、たくさんの人たちにまぎれ込んだ。

ある絵の前で足が止まった。その絵をじっと眺めた。植木鉢に咲いている花、鮮やかな色彩、とてもきれいだ。今の私の気持ちを明るくしてくれる絵でした。

その絵が欲しい、でも一体いくらなんだろう?すかさず販売員が値段を教えてくれた。簡単に買えるような額ではなかった。それでもやっぱり絵が欲しいと思う気持ちは変わりません。そこで思いきって買うことにした。決断の理由はこうです。車の免許を取ろうと思っていたので免許の代わりに買うことに決めたのです。案外簡単に決めることができた。

その絵と出会って直接自分が変わったわけではないのですが、心の贅沢を手に入れることができたように思います。

今、画廊という職場で個性的な絵やお客様との出会いの中で、心の贅沢を見つけていきたいと思っています。(とま ぬえ)

編集デスク

こう暑くてはゆったりと絵の鑑賞をすることでいい。クーラーの効いた部屋でジッとしているほうがいいに決まっている。そこでこのギャラリーボイスを読んで頂けたら...

今回は画家の金城明一さんにインタビューさせてもらった。沖縄の風景面を描き続けてきた金城さんの沖縄を、そして自然を愛する気持ちが切々と伝わってくるインタビューだった。

そろそろ暦の上では秋を感じる頃(?)となりました。読書の秋、食欲の秋、そして何よりも芸術の秋です。ぜひ画廊に芸術の秋を捜しにいらしてください。

(当間)



〒900 那覇市松尾1-5-7 (那覇ブランドホテル)
予約/TEL (0986) 62-6161
年中無休



首里の銘酒(本場泡盛)瑞泉
瑞泉酒造株式会社

沖縄県那覇市首里崎山町1-35 TEL(098)884-1958